

心理学

| | | | |
|--------------|--------------------------|--------|----------|
| 責任者・コーディネーター | 人間科学科心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 助教 | | |
| 担当講座・学科(分野) | 人間科学科心理学・行動科学分野 | | |
| 担当教員 | 藤澤 美穂 助教 | | |
| 対象学年 | 1 | 区分・時間数 | 講義 12 時間 |
| 期間 | 前期 | | |

・学習方針（講義概要等）

心理学は、「こころ」を科学的にとらえる学問のひとつであり、人間を探究する学問である。心理学では人間のもつ「こころ」の動きを理解するため、知覚・行動・感情などを対象とした実験・調査等がおこなわれ、また観察等を通じた人間行動解明へのアプローチがなされる。テレビや雑誌等で日常的に目にする「心理テスト」は、心理学から得られた知見をわかりやすく抽出したものではあるが、学問としての心理学においては、概念の定義、論理の整合性、科学的方法論等が重視され、より学術的で厳密な態度が求められる。

本科目においては、心理学の知見をもとに、「こころ」の動きが私たちの行動に及ぼす影響について、身近な例を通して理解することを目指す。

・教育成果（アウトカム）

1. こころの科学である心理学の知識を幅広く学ぶことによって、心理学的な見方を身につけることができる。
2. 心理学を基礎・応用の両視野から理解することで、日常の出来事を客観的に分析できる視点を身につける。
3. こころと行動を理解することを通して、個人・社会において生じる現象について、相互作用的にとらえることができるようになる。

・到達目標（SBO）

1. 学習や記憶のプロセスを心理学的視野から理解する。
2. こころのありようを考えることを通し、人間理解の多様性について学ぶ。
3. 個人と他者、個人と集団の相互作用について、理解する。
4. 自分の「こころ」への興味関心を高め、理解を深める。

・講義日程

(矢) 西 105 1-E 講義室

| 月日 | 曜日 | 時限 | 講座(学科) | 担当教員 | 講義内容 |
|-----|----|----|---------------------|----------|--|
| 6/7 | 火 | 4 | 人間科学科 心理学・行動科学分野 | 藤澤 美穂 助教 | 心理学とその歴史 こころを科学的にとらえるとはどういうことか、理解する |

| | | | | | |
|------|---|---|---------------------|----------|---|
| 6/14 | 火 | 4 | 人間科学科 心理学・行動科学分野 | 藤澤 美穂 助教 | 心理学でいう「学習」について 人間行動と学習について理解する |
| 6/17 | 金 | 2 | 人間科学科 心理学・行動科学分野 | 藤澤 美穂 助教 | 認知心理学-特に記憶について 記憶のメカニズムと特徴を理解する |
| 6/24 | 金 | 2 | 人間科学科 心理学・行動科学分野 | 藤澤 美穂 助教 | 社会心理学の視点から「集団」を考える 個人と社会の相互作用を、社会心理学の 観点から理解する |
| 7/1 | 金 | 2 | 人間科学科 心理学・行動科学分野 | 藤澤 美穂 助教 | 臨床心理学の基礎 臨床心理学の歴史とその実践領域について 理解する |
| 7/8 | 金 | 2 | 人間科学科 心理学・行動科学分野 | 藤澤 美穂 助教 | 働くことの心理学 バーンアウト、セルフケア、ワークライフ バランスについて理解する |
| 7/15 | 金 | 2 | 人間科学科 心理学・行動科学分野 | 藤澤 美穂 助教 | 犯罪行動の心理学 犯罪行動と準拠集団の関連を理解する |
| 7/22 | 金 | 2 | 人間科学科 心理学・行動科学分野 | 藤澤 美穂 助教 | 思春期青年期の理解、まとめ 思春期青年期の課題を理解し、よりよい 対人関係・恋愛関係について考える |

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

| | 書籍名 | 著者名 | 発行所 | 発行年 |
|---|-------------|--------|------|------|
| 教 | 図説心理学入門 第2版 | 齊藤勇（編） | 誠信書房 | 2005 |

・成績評価方法

試験の成績を60%、レポート課題を40%として評価する。

・事前学修時間

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、参考書等・レジメを用いて予習・復習を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。

・特記事項・その他

予習・復習のポイント

授業において次週の内容として示された箇所を、教科書を中心に予習をすること。

復習については、ノートを中心に、興味がある箇所は図書館の文献などで調べる。

授業で紹介する書籍や論文、DVDなどは、心理学分野研究室にもそろっていますので、積極的に研究室を訪問してください。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

| 使用区分 | 機器・器具の名称 | 台数 | 使用目的 |
|------|---|----|------------|
| 講義 | ノート型 PC (MacBook Air MD711J/A) | 1 | 講義資料の提示 |
| 講義 | プロジェクター | 1 | 講義資料・教材の提示 |
| 講義 | DVD (BR)プレーヤー | 1 | 教材の提示 |
| 講義 | 書画カメラ | 1 | 教材の提示 |
| 講義 | デスクトップ PC (iMac21.5 ZOMP CTO Education) | 1 | 講義資料の作成 |